

令和6年度文部科学省委託事業
「日独青少年指導者セミナー（A1・A2）」事業報告書

1. 事業趣旨

「社会の課題や変化に対応するための青少年を対象とした取り組み」の研修テーマに基づき、行政機関、関係団体・施設等での実地体験、青少年指導者との研究協議などを行うことを通して、日本の青少年教育等の現状と取組を理解するとともに、日独の青少年教育等の比較をすることで、青少年指導者の資質・能力の向上を図る

2. 実施関係機関

(1) 主催 日 本：文部科学省

ドイツ：家庭・高齢者・女性・青少年省

(2) 実施 日 本：独立行政法人国立青少年教育振興機構

ドイツ：A1 ドイツ連邦共和国国際ユースワーク専門機関（IJAB）

A2 ベルリン日独センター（JDZB）

3. 研修テーマ

◎共通テーマ：社会の課題や変化に対応するための青少年を対象とした取り組み

A1テーマ：若者を取り巻くメディア環境—課題と解決に向けた取り組み（淡路）

A2テーマ：子供と若者の貧困—課題と解決に向けた取り組み（若狭湾）

4. 参加人数

(1) ドイツ団：A1、A2ともに9名（団員8名、団長1名）

(2) 随行者：独立行政法人国立青少年教育振興機構国際・企画課職員1名、通訳1名

5. 日程

(1) 全日程：令和6年5月26日（日）～6月9日（日）（15日間）

(2) 東京プログラム①：令和6年5月27日（月）～5月30日（木）（3泊4日）

(3) 地方プログラム：令和6年5月31日（金）～6月5日（水）（5泊6日）

※ホームステイプログラム：令和6年6月1日（土）～6月2日（日）（1泊2日）

(4) 東京プログラム②：令和6年6月6日（木）～6月9日（日）（3泊4日）

6. 地方プログラム（淡路）ダイジェスト

<6月1日（土）～2日（日）>

○ホームステイ・ホストファミリー交流会

淡路島内及び徳島県内のホストファミリー宅でホームステイを行った。それぞれの家庭で、自然・文化体験や施設見学などを楽しみ、日本の文化に直接触れ、肌で感じるにより理解を深めることができた。

二日目には、ホストファミリーとの交流会（お別れ会）を行った。それぞれのホームステイ先での思い出を語り合うとともに、ドイツ団が用意した歌や踊りなどを全員で共有することで、楽しいひと時を過ごすことができた。



○取組説明・プログラム体験「国立淡路青少年交流の家」

国立淡路青少年交流の家及び日本における青少年教育の概要について説明を受けた。また、国立淡路青少年交流の家で研修支援プログラムとして行っている「藍染め」を体験し、隣接する徳島県の伝統文化について触れる機会となった。



< 6月3日（月） >

○訪問「鳴門教育大学附属中学校」

説明者：校長 大泉 計 氏

教頭 福田 幸司 氏

はじめに3つの授業の見学を行った。英語科では海外でも愛される日本の伝統文化の魅力を知り、生徒が英語で作った俳句を紹介してもらった。国語科（書写）の授業では、楷書で書く際の筆遣いを体験させていただき、日本の文化に触れる機会となった。技術・家庭科の授業では、生活の中にある Web ページの工夫をまとめる学習を見学し、ドイツとのカリキュラムの違いを知った。授業見学後は、先生方と日本とドイツの「学校」、「家庭」におけるメディア利用への指導の仕方などについて意見交換を行った。



○訪問「四国大学」

説明者：情報教育センター 講師 長瀬 大 氏 他3名

はじめに教育としてeスポーツに取り組む意義や日本の現状について説明を受けた。また、eスポーツの教育や福祉に関する可能性について四国大学や徳島県の実例やドイツでの取組状況について交流するとともに、意見交換を行った。最後に学生とのeスポーツでの対戦を通して交流を深めた。



< 6月4日（火） >

○訪問「一般社団法人ソーシャルメディア研究会」

説明者：代表 竹内 和雄 氏 他5名

最初に研究会に所属する学生から「ソーシャルメディア研究会」が実施している出張授業やオフラインキャンプの取組について説明を受けた。その後、研究会の代表兼兵庫県立大学教授の竹内和雄氏より、ネット利用率など日本の青少年のメディア利用に関するデータについて説明を受けた。最後の意見交換では、学生の取組や竹内氏の説明をもとに、日本とドイツのメディア利用の違いやネットとうまく共生する社会について意見交換を行った。



< 6月5日（水） >

○訪問「関西学院大学」

説明者：副学長 兼 情報化推進機構長 巳波 弘佳 氏 他3名

「生成 AI にどのように向き合うか?」というテーマで、生成 AI が大学教育にもたらしている影響など教育現場での利用例の説明を受けた。続いて、AI をどのように使いこなすか、AI を使いこなす人材をどのように育成するかについて、関西学院大学の AI 活用人材育成プログラムを中心に説明を受けた。最後に、ドイツにおける生成 AI が教育にもたらしている影響や、人材育成について情報共有するとともに、今後、生成 AI にどのように向き合うかについて意見交換を行った。



7. 成果と課題

日本におけるメディア環境の現状や取組をドイツ団に理解してもらうため、ネットトラブル防止に取り組む事例や教育としてeスポーツに取り組む意義や日本の現状について考察する機会となった。また、学校教育におけるメディア利用への指導の仕方や生成AIが大学教育にもたらしている影響について関係者と意見交換することで、メディア環境に対する日独の共通点・相違点について理解を深めることができた。

コロナ禍以降、初めて1泊2日のホームステイプログラムを実施することができたが、ホストファミリーとの交流を通して日本文化に触れることができ、ドイツ団の満足度も非常に高かった。